

イド薬をはじめとした吸入薬で、治療効果を得るためには吸入薬を正しい方法で定期的に吸入する必要がある、吸入方法のコツを詳しくお話しいただきました。

講演の四番目は、熊本地域医療センター呼吸器・アレルギー内科医長の津村真介先生から「ぜんそくの最新治療」と題して、ぜんそく患者の一〇％は十分に治療を行っても病気をコントロールできない重症ぜんそくで、さらなる治療選択肢として生物学的治療と呼ばれる皮下注射の投薬があります。有効性や問題点、その他の治療選択肢も含めてわかりやすく解説をいただきました。  
講演終了後の質疑応答は、あらかじめ寄せられた質問に講演者が答える形で行いました。約百人の来場者があり、内容を、三月二十六日の熊本日日新聞紙面に掲載しました。

なお、令和元年度開催しました三回の市民公開セミナー（第六十七回〜第六十九回）につきましては、本財団のホームページにも掲載しました。

**総合生活情報紙「あれんじ」の健康・医学・医療・学術記事の執筆・監修**

副理事長 山本 哲郎

令和元年度も、熊本日日新聞社発行の総合情報紙「あれんじ」（タブロイド判十六頁三十五万部発行）の第一土曜日分の十面と十一面の見開き二頁について執筆・監修を行い、健康・医学・医療の学術情報を県民に提供しました。内容としては、「元気の処方箋」（最新の医学医療記事）と「子育て応援クリニック」（小児科関連の医学医療記事）（十面）は、十二回（毎月）、「慈愛の心・医心伝心」（女性医療人によるリレーエッセイ）（十一面）を八回（五、六、八、九、十、十一、十二、三月）掲載いたしました。また、「四季の風」（季節の新作俳句）（十二面）を四回（四、七、十、一月）掲載いたしました。

なお、これらの全ての記事を「肥後医育振興会」のホームページに転載しております。どなたでも自由に読めるようになっています。「慈愛の心・医心伝心」などは読者からの読後感想が毎回のよう熊本日新聞社に寄せられているので、皆様、ぜひホームページもご覧下

さいませ。  
以下に「元気の処方箋」のテーマを記載します。

- 四月 骨髄移植とドナー登録
- 五月 この時季は「春バテ」に注意  
若者のメンタルヘルス
- 六月 中年の「お口」の健康
- 七月 身近になった心臓の検査
- 八月 夏休み 子どもの肥満に気をつけて
- 九月 体と一緒に頭も鍛える コグニ  
サイズをはじめよう（前編）
- 十月 体と一緒に頭も鍛える コグニ  
サイズをはじめよう（後編）
- 十一月 知識・意識をアップデートしよう  
エイズ・HIV感染症
- 十二月 尿のトラブルはなぜ起きる 過  
活動膀胱を知ろう
- 一月 婦人科がんと遺伝子検査 遺伝  
性乳がん・卵巣がん
- 二月 自分らしく「生きる」ために  
終末期医療を考える
- 三月 突発性難聴と加齢性難聴

**「第十回熊本県医療人育成総合会議」の開催**

常任理事（事業担当） 片瀧 秀隆

米国における外国人医師免許取得試験受験資格の一つとして、卒業した大学医学部（医科大学）が世界共通の認定を受けていることが、二〇二三年の受験者から必要となった。日本人の医学部卒業生の中で米国での臨床医療活動を志す若手医師は今後、増加するものと思われる。しかし、日本の医学教育は独自に発展してきたところもあり、国際的標準化への対応には適さない部分が残されている。一方、アジア諸国を見ると、医学部・医科大学の世界標準化対応はすみやかに進行している。そこで日本においても国際化の問題は重要課題に急浮上してきたといえる。

この世界標準化の特徴の一つは、総合大学単位ではなく、医学部（医学科）単位で評価・認定を受けることにある。ところがその一方で、チームワーク医療の促進のために、医学系、薬学系及び保健学系学生の同時参加型教育の推進が求められてきている。また薬学系、保健学系においてもそれぞれの世界標準化教育に関心が高まってきた。